

所属 総合文化コース	職名 教授	氏名 山之内克子	大学院における研究指導担当資格の有無 (有・無)
------------	-------	----------	--------------------------

I 教育活動		
教育実践上の主な業績	年月日	概要
1 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む） ①双方向型の授業の実施 ②視覚・映像資料の利用	2011年4月～2016年3月	学生との対話を重視し、理解度や関心を確認しながら授業を進行するよう努めている。 また、語学科目では、毎回宿題プリントを課し、添削・コメントして返却している。 文化史関係の授業では、さまざまな画像・映像資料を積極的に利用し、受講者が実際の芸術作品や原史料、都市像のイメージを把握しやすいように努めている。
2 作成した教科書、教材、参考書 ①プリントの作成 ②問題集の授業にあわせた編集	2011年4月～2016年3月	講義課目、ゼミでは、毎回独自のプリントを作成し、配布している。 語学科目では、既存の問題集や参考書の練習問題を、授業進度にしたがって編集しなおして使用している。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		特になし
4 その他教育活動上特記すべき事項	2014年4月～2016年3月	ユニティ(神戸研究学園都市大学交流推進委員会)の公開講座にて、ドイツ語講座を担当。社会人を対象に、「よくわかるドイツ語文法」からスタートして、グリム童話の購読など、ドイツ語に親しむ機会を提供することに努めている。

II 研究活動					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(及び巻・号数)等の名称	編者・著者名(共著の場合のみ記入)	該当頁数
著書					

『識字と読書ーリテラシーの比較社会史』	共著	2010年3月	昭和堂	◎松塚俊三、八鍬友弘	156-184頁
『ウィーン・オーストリアを知るための57章』	共著	2011年4月	明石書店	◎広瀬佳一、今井顕	178-201、234-274頁
『ドイツ文化史入門』	共著	2011年6月	昭和堂	◎若尾祐司、井上茂子	113-141、157-165頁
『ハプスブルク恋の物語』	共著	2012年3月	新人物往来社	新人物往来社編	78-81、86-91頁
『ヨーロッパ史のなかの思想』	共著	2016年3月	彩流社	大内宏一編	69-90頁
『物語オーストリアの歴史-中欧「いにしえの大国」の千年』	単著	2019年6月	中央公論新社		452頁
論文					
「18-19世紀ウィーンにおける画像印刷物の社会文化史的意味ーヒエロニムス・レッシェンコールを中心に」(前編)	単著	2018年4月	『神戸外大論叢』、第68巻第2号		111-128頁
「18-19世紀ウィーンにおける画像印刷物の社会文化史的意味ーヒエロニムス・レッシェンコールを中心に」(後編)	単著	2018年4月	『神戸外大論叢』、第68巻第2号		129-160頁
訳書					
『ハプスブルク君主国ー1765-1918 マリア・テレ	共訳	2010年2月	NTT出版	ロビン・オーキー著 三方洋子、秋山晋吾(共訳者)	600頁(総ページ数)

ジ アから第一時大戦まで』					
『人生の愉楽と幸福・ドイツ啓蒙主義と文化の消費』	単訳	2013年11月	法政大学出版局	ミヒャエル・ノルト著	390頁(総ページ数)
その他					
「『凶像の新聞発行人』—『ヒエロニムス・レッシェンコール展』がふたたび問いかけるもの」	単著	2010年2月	『創文』2010年1/2月号		23-28頁
「『ばらの騎士』は実在したのか?—ツィンツェンドルフ伯爵の日記にみるウィーン貴族の結婚事情」	単著	2011年4月	新国立劇場オペラパレス 2010/11年シーズン リヒャルト・シュトラウス『ばらの騎士』公演 プログラム、新国立劇場		23-26頁
「フランツ・ヨーゼフ—旧き良きハプスブルク帝国の表徴」	単著	2013年12月	河出書房新社 (江村洋、『フランツ・ヨーゼフ ハプスブルク家最後の皇帝』 解題)		450-455頁
「『アラベッラ』—レトロスペクティブとしてのシュトラウス・オペラ」	単著	2014年5月	新国立劇場オペラパレス 2013/2014年シーズン リヒャルト・シュトラウス『アラベッラ』公演プログラム、新国立劇場		28-31頁
「マリー・アントワネットが食したスイーツを再現せよ!」	単著	2017年3月	講談社『クーリエジャポン』、4月1日配信		(約11,000字)
(書評)イェルン・タインダム著/大津留厚、小山啓子ほか訳、『ウィーンとヴェルサイユ—ヨーロッパにお	単著	2018年6月	『史潮』新83号		97-104頁

けるライバル宮廷 1550-1780』					
「『世紀末ウィーンのグラフィック展』をみる-20世紀末を超えた新しい「世紀末芸術」への展望」	単著	2019年8月	京都国立近代美術館ニュースニュース『視る』501号		6-7頁
「ザルツカンマーグート-ハプスブルク家の『塩の御料地』	単著	2019年10月	くらしお～塩と暮らしを結ぶ運動公式サイト、10月20日配信		(約4,000字)
(書評)戸谷浩著、『ブダペシュトを引き剥がす-深層のハンガリー史へ』(彩流社2017年)	単著	2020年4月	『東欧史研究』42号		23-29頁
「オーストリアでリハール再開-どうなる、ザルツブルク音楽祭?!」	単著	2020年4月	音楽之友社 Web マガジン ONTOMO (4月28日配信)		(約2500字)
「モーツァルトがおねだりした『赤いフロック』とウィーンのモード」	単著	2020年5月	音楽之友社 Web マガジン ONTOMO (5月1日配信)		(約3000字)
「ザルツブルク音楽祭100周年は『悪魔は細部に宿る』を警句に新プログラムで始動!」	単著	2020年5月	音楽之友社 Web マガジン ONTOMO (5月15日配信)		(約3800字)
シリーズ記事『週間ベーターヴェンと〇〇』 vol.18 「1812年失踪事件」	単著	2020年5月	音楽之友社 Web マガジン ONTOMO (5月4日配信)		(約700字)
vol.20 「無銭飲食事件」	単著	2020年6月	音楽之友社 Web マガジン ONTOMO (6月1日配信)		(約600字)
vol.21 「ヴィーナーノイシュタット拘留事件」	単著	2020年6月	音楽之友社 Web マガジン ONTOMO (6月8日配信)		(約600字)
vol.23 「プロイセン王の偽ダイヤ事件」	単著	2020年6月	音楽之友社 Web マガジン ONTOMO (6月22日配信)		(約600字)
vol.34 「ベーターヴェン	単著	2020年10月	音楽之友社 Web マガジン ONTOMO		(約1000字)

とゲーター- 出会いと決別編」			(10月12日配信)		
vol.35 「ベートーヴェンとゲーター-再会編」	単著	2020年10月	音楽之友社 Web マガジン ONTOMO (10月19日配信)		(約1000字)
その他					
ザ・プロファイラー「愛と戦いに生きた”女帝”マリア・テレジア」 (テレビ番組制作監修)		2017年1月	NHKBS プレミアム(1月19日放送)		
グレーテルのかまど「マリー・アントワネットとクグロフ」 (テレビ番組制作監修)		2017年4月	NHK 教育テレビ(4月3日放送)		
グレーテルのかまど「マリア・テレジアとミルクのシュトルーデル」 (テレビ番組制作監修)		2017年4月	NHK 教育テレビ(4月10日放送)		
「世紀末ウィーンの社会と文化」 (「世紀末ウィーンのグラフィック」展関連講演)		2019年5月12日	目黒区美術館		
“Geschichten der Geschichte Österreich: Österreich in Japan, Japan in Österreich “ (『物語オーストリアの歴史』プレゼンテーション、日墾修好150周年記念講演)		2019年9月21日	Austro American Institute of Education (オーストリア、ウィーン)		
「世界支配者はなぜ美術品を収集したのか-芸術コ		2019年11月30日	国立西洋美術館		

レクシオンにみるハプスブルク家の横顔 (「ハプスブルク展-600年にわたる帝国コレクションの歴史」 関連講演)					
III 学会等および社会における主な活動					
1989 年～	日本西洋史学会会員				
1994 年～	日本ドイツ学会会員				
2000 年～	Gesellschaft für Buchforschung in Österreich(オーストリア書籍研究学会)会員				